

タンポポの会だより(第35号)

2014/6/16発行

タンポポの会事務局

「ミニ講演会」「高岡市の景観・歴史まちづくり」・・・どれだけ知っていますか？

高岡市 都市計画課 まちづくり担当 課長補佐 畑下 隆至

○6つの「歴史的風致」設定・・・開町以来の町並みや祭礼・行事など、「高岡らしい」個性をみがき、魅力を高め、広く市民が高岡の歴史と伝統を再認識し、誇りと愛着を持てる「歴史都市」の実現を目指し、その計画に歴史的価値の建造物と人々の活動が一体となった良好な環境を「風致」と言う。

①商人の町、祭礼・行事による歴史的風致

御車山巡行、木舟町の車輪、山町筋の町並み

②利長・利常への報恩感謝と前田家に見る歴史的風致

瑞龍寺仏殿、ひとつやいと、前田利長墓所

③鋳物のまち金屋に見る歴史的風致

御印祭、金屋の町並み、鋳造作業

④北の玄関口 伏木・吉久と祭礼・行事による歴史的風致

伏木曳山祭、商工会議所伏木支所、吉久の町並み

⑤勝興寺と寺内町に見る歴史的風致

勝興寺、御萬灯法要、旧・秋元家住宅

⑥旧・北陸道と菅笠づくりに見る歴史的風致

和田の町並み、菅干し、旧・菅笠問屋の町並み



○関連する施策・・・歩いて楽しいまちづくり、旧町名の復活(高岡商工会議所が主導)

○高岡・雨晴海岸の有磯海(女岩・めいわ)が国の名勝に指定されました。

文化審議会は11月15日、俳聖・松尾芭蕉が陸奥(みちのく)、北陸路を旅した「おくのほそ道の風景地」(10県13ヶ所)など名勝に指定するよう下村文科相に答申した。

高岡市の有磯海(女岩)など13ヶ所は「ストーリー性を持った一体の景観群」として選ばれ、往時をしのぶ優れた風景地として価値が高いと評価された。 県内では「特別名勝の黒部峡谷」

「名勝の称名滝」に次いで3件目で、名勝指定は1973年の称名滝以来40年ぶりとなります。

「わせの香や 分入(わけいる)右は 有磯海」・・・おくのほそ道の越中のくんだり

泌尿器科の近況・・・4月1日人事移動あり、新スタッフでスタートしました。

医 局 診療部長 池田大助 部長 四柳智嗣 医長 大筆光夫

又、大学からの応援診療で外来検査～手術を担当しています。

スタッフ(外 来) 宮脇看護師 以下2名と事務員1名で対応しています。

(スマー外 来) 開 皮膚排泄ケア認定看護師・・・木曜日午後泌尿器科(予約必要)

(入院1病棟6階) 伊勢看護師長を始め、25名の看護師が三交代でお世話しています。

総合的がん相談支援センター「がん相談支援室」・・・(新西診療棟2F)

がんに関する質問や相談にお応えしますので、ぜひお越しください。(もちろん無料です)

厚生連・高岡病院の窓口として、「タンポポの会」の活動のサポートをしています。

(専用FAX 0766-24-9517)・・・担当;前田看護副師長

タンポポの会・「講演会」のご案内と第6回「作品展」

日 時 7月19日(土)午前10時00分～11時45分

会 場 厚生連・高岡病院 2F研修室(I)

・・・”笑顔と有難う”のライフプラン。

演題: 「人生100年時代の楽しみ方」・・・

富山社会人大楽塾

塾長 柳原正年



「作品展」①各人2点以内とする。(講演会の開始30分前に持参してください)

②平面作品;30号以内。立体作品;1M*1M/5Kg以内。文芸作品短冊・色紙。

③出品者には図書券進呈。

タンポポの会・第19回総会が開催されました。

3月22日(土)午前10時00分～11時45分に厚生連・高岡病院 2F研修室(I)において池田顧問と会員10名の参加で開催されました。(尚、欠席者の委任状8名あり)

最初に菅原会長から開会の挨拶・・・元気で再会出来たことを皆さんと喜び、加えて19回を迎えた「タンポポの会」も一人立ちを試行のなか、少しは自信を持ちつつも、来年には早や20年の節目であり、宿題も多くあります。(会員の協力期待!) 又、会の収支面でも収入に今年も”赤い羽根共同募金”の助成が決定した旨の報告があった

顧問のDr池田先生からも激励のお言葉をいただきました。

議 事 第1号議案の25年度活動と収支決算の報告があり
続いて監査報告あり・・・拍手で承認されました。

第2号議案の26年度活動計画と予算案が説明され
・・・拍手で承認されました。

行 事 7月19日(土)「講演会」と 第6回「作品展」
10月18日(土)「日帰り旅行」・・・「山」方面予定
翌年3月20日(土) 第20回「定時総会」

その他

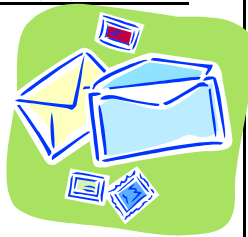
その後 「ミニ講演会」で「高岡市出前講座」が開催され、
「高岡市 景観・歴史まちづくり計画」・・・都市計画課
どれだけ知っていますか?・・・有意義な「ミニ講演」でした。



姿を消す公衆電話・・・あなたは最近「緑の公衆電話」を使いましたか?

携帯電話の著しい普及の影で、かつてはどこのでも見られた公衆電話の減少に歯止めがかからない。富山県内でも1900台足らずと15年前の3分の1以下のなった。災害時に優先して通話できる公衆電話をめぐっては、東日本大震災をきっかけに再評価する動きはあるが、事業の採算性に乏しく削減は今後も続く見通しだ。緊急時に有用なインフラと位置付ける防災の専門家からは心配する声が上がっている。携帯電話は勿論、最近では「スマホ」でも「1人1台」時代に突入した現状では公衆電話の利用は低迷しており、NTTでは損失が生じる事業からの撤去方針であり、災害時の有用な通信手段を、安全・安心のため国としての折り合いを、どう日本の政府は、維持する方向に向かうのか否かが問われています。

(テレホンカード世代の独り言)



編集後記

年3回(1月・5月・9月)発行をめざしていますので、会員各位の投稿が増えて「タンポポだより」が賑やかになるように、皆さんの投稿協力をお願いします。次の36号は9月中旬発行で9月5日締切です。リクエストで新コーナーを設けますので(仲間と集う・ちょっと一言・話題の窓・私の夢・・・) 泌尿器科の外来窓口へご一報ください。

(タンポポの会事務局)

※「タンポポの会」は次記の皆様からのご支援を受けています。



”じぶんの町を良くするしくみ”

赤い羽根共同募金

「タンポポの会」の講演会は助成を受けて実施しており毎年10月1日から12月31日まで「赤い羽根共同募金」が行われますので、私たちも”赤い羽根”に協力しましょう!